

建築・土木②

防波堤や県道を築く

砥石崎の防波堤

ド・ロ神父が考案した土木工具(ド・ロ神父記念館蔵)

外海には船が停泊できる入り江が少なく、漁船が出入りできる場所が少しかありませんでした。この問題を解決するため、1885年にド・ロ神父は漁船が安全に停泊し漁業を行えるように、出津の沿岸に防波堤を作りました。

ド・ロ神父のもう一つの土木事業の例としては、県道工事が行われた際、工事で現金収入が得られるように村の男性たちに工具を与え、指導者も配置して道路工事に協力したことです。ちょうど同じ年、大飢饉にみまわれたので、空腹で工事にたずさわらなくてよいように、大量のかんころを取り寄せ、村人に原価で与えました。この事業によってできた県道によって、孤立していた外海の村へのアクセスが改善しました。